

「喜ばせてくれるもの」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 真っ赤な薔薇に…

兵庫高校との定期戦を終えたあと、華道部があらたに校長室に飾ってくれた生け花は少し華やかなものでした。メッセージが添えてあります。『花材はバラ、ドラセナ、ワットソーニャです。ワットソーニャは南アフリカが原産地です。文化祭、来てくださり、ありがとうございました』とのこと。ひときわ背の高いワットソーニャと真っ赤な薔薇が実に印象的です。

そもそも5月から6月にかけて咲く薔薇は気温の上昇にともない開花するためか花弁が厚く、色鮮やかなことが特徴とされています。思えば、今年度が始まってから早や2か月ですかね。あらためて、真っ赤な薔薇が時の流れを教えてくれたような気がしました。

そう言えば、つい先日。開けっ放しの校長室の扉の向こう、ちらりと部屋の中を覗き見て素通りした人影が、再び後戻りしてきました。じっと見つめていると目が合います。大久先生でした。「どうしたんですか」と尋ねると、「自慢してもいいですか?」と話しかけてくれましたので、招き入れました。

今月始めに開催された市内の卓球大会。男子学校対抗の部で本校卓球部が見事に3位入賞を果たしたのだそうです。ベスト4の残り3校は私立高校ですから、これは快挙ですね。部活動の顧問にとって、生徒の活躍ほどうれしいものはありません。卓球部の皆さん、大久先生は表情を崩し、試合の様子を話してくれましたよ。

創立記念祭中にはこんな話もありました。一般の方から学校にかかってくる電話と言え、その多くは生徒の登下校時のマナーに関する苦情の電話です。4月にもそんな電話、ありました。しかし、その日の電話は少し様子が違ったようです。電話はお子さんをおなかの中に宿しているという、いわゆる妊婦さんから。

『昨晚、19時頃バスに乗った際、満員であったため座席には座れないと諦めていたところ、神戸高校の女生徒さんが座席で単語帳を見て勉強していたのに私に気づき、「換わります」と席を譲ってくださりました。とても助かりました。ありがとうございました』とのことでした。生徒指導部の先生方が朝の打ち合わせでこのことを先生方にお伝えしたくなった気持ち、私にはよく解りました。それくらいこの話もうれしかったんですね。

先日、私もバスの車内に傘を置き忘れたまま降車しようとしている方に気づき、「忘れてますよ」とその傘の柄を握ったまま走り寄る女生徒の姿も見かけました。後で、その女生徒に私もつい「ありがとう」と声を掛けてしまいました。世界をより優しいものにするのは、そうした行為のひとつひとつに他ならないからです。

人の立ち居振る舞いに詳細なルールなど定められてはいません。でも、まわりの人を不快にしないだけでなく喜ばせてしまう、そんな立ち居振る舞いのできる人でありたいものですね。人を大切にする人は人から大切にされます。人を大切にして、人から大切にされる。明日を生きる子どもたちに向けての大人たちのいちばんの願いとは、結局のところ、そういう生き方をしてもらいたいということに尽きるような気がしています。

放課後、地獄坂をくだり、第二運動場の硬式テニス部の練習を見ていると硬式テニス部の生徒から「校長先生がこんなところまで練習を見に来てくれるんですか?」と尋ねてくれたことがあります。だから私は答えました。「だって普段の練習を見ていないと、君らが勝った時の喜びが少なくなっちゃうからね」って。

振り返れば、生徒の姿に幾度も喜ばせていただいた2か月です。サプライズで漫才コンビのミルクボーイが学校を訪れてくれた際に、2年9組の生徒が駆け寄り寄りせず教室前の廊下で待ち焦がれていた姿も品があり、とても素敵でした。このあと、ミルクボーイのお2人は合唱部へ。その詳細は6月9日、16時頃から毎日放送で放映されるとのこと。これも楽しみです。

